

ポスター発表の手引き

日本中世英語英文学会事務局

2014年9月作成

2015年11月改訂

《目次》

1. ポスター発表とは
2. ポスター発表までの手順
3. ポスター発表の要領

1. ポスター発表とは

1.1 口頭発表との相違点

- ・ポスターとは、大きな紙ないし厚紙に、文章・表・グラフ・写真などを、視覚情報として提示したものである。
- ・このポスターを用いての研究発表がポスター発表であるが、学会報告に比べてフリー・ディスカッションの性格が色濃いという特徴をもつ。
- ・視覚情報を多用した掲示方式、発表者と直接対話できる少人数制に加えて、時間的な制約も小さいので、発表者・参加者とも、徹底的に議論することができる。
- ・聞き手との距離が近く、気楽に接しやすいことから、発表者にとってもフロアの反応が分かりやすく、アドバイスも受けやすい。
- ・互いの顔をおぼえやすいので、若手研究者にとっては自己アピールの好機であり、また人間関係の輪を広げる格好の場ともなる。

1.2 ポスター発表に求められるもの—参加者の視点から—

- ・参加者のメリット：会場を自由に動き回れること。
- 実際、参加者の多くは、当日、歩き回りながら、興味を引くポスターを探すことが多い。
学会報告に比べ、その場で参加者の関心を引くことが重要になる。

1.3 会場の雰囲気と状況

- ・会場はオープン・スペースで、同時に複数のポスターが掲示される。
- ・参加者はポスター展示会場を自由に見て回り、発表者と直接対話するので、会場各所で同時並行的に議論が行われる。
- ・発表者は、基本的にはポスターの側に待機しておく。そして適宜、参加者からの質問に答えたり、補足情報の提供、あるいは参加者の注意をポスターに引くなどする。
- ・参加者の関心を引くことが重要な以上、まず遠目に「もっと近寄って検討したい」と思わせることが発表者の課題となる（目安として「およそ3m離れたところから目を引く」よ

う心がければよい)。

・ただ「近寄って検討」する際にも「1mほど離れて見やすい」ことが条件となる。
以上はおよその目安だが、いずれにせよ、見やすさを心がけることが重要である。

2. ポスター発表までの手順

2.1 ポスターの作成

・ポスターは、当日までに発表者自身が準備する。
・ポスターの構成は自由であるが、文字や図表の大きさなど、見やすさに十分に配慮する必要がある。 →「あまり詰め込みすぎない」ことが肝要。

・ポスターには次のようなタイプのものが考えられる。

(1) A4 や B4 など比較的小さいサイズの用紙を多数組み合わせせてパネルに貼り出すもの。

→複数の用紙に分けて掲示する場合、見る順番を示した番号を振っておく。

(※発表者がポスターの側にいない場合でも参加者の理解が容易になるよう配慮する)

(2) プリンタの「ポスター印刷機能」を利用して分割印刷したものを組み合わせたもの。

→プリンタによっては機能がサポートされていないことがあるので要注意。

→「ポスター分割印刷」「ポスター印刷ソフト」等のキーワードで Web 検索をすると印刷の手順やフリーソフト、市販ソフトについてさまざまな情報が得られる。

(3) 所属機関のポスタープリンタ、大判プリンタを利用して出力したもの。

→情報処理センター等で出力サービスを行っていることがある。

(4) 業者に依頼する。

→オンラインでの注文を受け付けているところとして

http://www.pleonet.com/poster_print/modules/pico/index.php?content_id=47

(※このサイトにはポスター印刷に関する重要な情報が多数掲載されている)

<http://www.kinkos.co.jp/>

などがある。業者に依頼すると A0 サイズで約 5,000～10,000 円程度の費用を要する。

・

2.2 ポスターの掲示

・ポスターは会場の指定されたパネルに貼り出す。

・パネルのサイズは別ファイル参照。

→ボード面はクロス張りなので、掲出には画鋸が必要。各自で用意してください。

・ポスターセッションの時間帯は大会プログラムに記載の通り。準備開始が可能な時刻は大会準備委員会と調整の上、事務局より追って連絡する。

・ポスターの縮刷版やハンドアウト、参考文献一覧等の関連資料は発表者で用意する。

→これらに加えて、名刺や既発表論文の抜き刷り等を用意しておくのもよい。

3. ポスター発表の要領

3.1 ポスターの形式と内容

・ポスターの形式は自由。発表者のセンスに委ねられる。いずれにせよ、見やすさが重要である。

・ポスターの内容は、研究報告、論文の構想発表、中間経過報告、プロジェクトの概要報告など多様なものが考えられる。

・研究報告ならば、下記のような形態をとると見やすい。

表題 内容を簡潔に示すと同時に、大きく読みやすいフォントを使用する。

要旨 別紙(2.2 参照)にて用意しない場合はポスターに記載する。見やすさと同時に、結論がすぐに分かるよう留意する。

本文 序論、本論、結論の三部構成が望ましい。ポスターだけでも流れを追って理解できるように内容にストーリーをもたせる。

・修士論文などの構想発表

表題、何を研究対象に、どこまで進んでいるか、今後の方向性、現時点での問題点等を簡潔に示す。

・フォントサイズについては最終的な出来上がりの段階で、もっとも小さな文字でも 60pt 程度ないと、読みにくい。表題についてはもっと大きなサイズにする必要がある。

3.2 ポスター発表の場での留意点

・「説明：X 月○日 12:00, 12:45」のように発表を開始する時間を明示しておけば、参加者は計画的に回ることができるし、発表者が他のポスターを見に行くことも可能になる。

・最終的には、参加者の流れなど、会場内の様子を見て発表者自身が総合的に判断することになる。たとえば特に質問されなくても、ポスターの前に数人集まってきたところで「それでは説明を始めましょう…」と説明を開始するなど。

《謝辞》

本手引きは、西洋中世学会の「ポスター発表のガイドライン」を元に、日本中世英語英文学会の実情に合うように編集したものである。利用を快諾された西洋中世学会の関係者各位に感謝申し上げます。